



來ル可キ條約改正ニ際スル國定稅率及ビ協定稅率如何(其一)

津村，秀松

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 7(2):223-231

(Issue Date)

1909-08

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051426>



來ル可キ條約改正ニ際スル國定稅率及ビ

協定稅率如何 (其一)

神戸高等商業學校教授

津 村 秀 松

一、

夫レ關稅率制度ニハ、(一)國定稅率制アリ、(二)協定稅率制アリ、(三)國定協定稅率制アリ、(四)複關稅率制アリ。來ル可キ條約改正ニ際シ、我國ノ採用ス可キハ、是等ノ四種其ノ一ニ外ナラザル可シ。然ルニ我國ニシテ極端ナル保護貿易主義ヲ採ルコト、米國ノ如クナルカ、將又極端ナル自由貿易主義ヲ採ルコト、英國ノ如クナラザル限リハ到底單純ナル國定稅率制ヲ採用スル能ハザル可ク、サリトテ又我國ニシテ全然相手條約國ノ意思ニ盲從スルコト、清韓諸國ノ如クナラザル限リハ、到底單純ナル協定稅率制ヲ採用スル能ハザル可ク、結局、我國ノ採用ス可キハ、國定協定稅率制カ、將タ又複關稅率制カナレドモ、之ヲ過去ノ事例ニ徵シ、之ヲ現在ノ國狀ニ照シテ考フ

ルトキハ複關稅率制モ亦其ノ當ヲ得タルモノニ非ザルハ嘗テ論ジタルガ如シ(本誌第五卷第五號及ビ第六卷第二號拙稿參照)果シテ然ラバ、剩ス所ハ唯ニ夫レ現制ノ如キ國定協定稅率制ノミナル也。

來ル可キ條約改正ニ際シ、我國ハ從來ノ如ク、國定協定稅率制ヲ維持セザルベカラズト決セバ、次ニ來ル可キ問題ハ申ス迄モ無ク、

- 第一、如何ニ國定稅目ヲ定メ、如何ニ國定稅率ヲ規定ス可キカ、
 - 第二、如何ニ協定稅目ヲ定メ、如何ニ協定稅率ヲ約定ス可キカ、
- ニ外ナラザル可シ。

二、

第一ノ問題ハ、第二ノ問題ノ先決問題タリ。凡ソ條約改正ニ當テ、先ヅ第一ニ準備ス可キハ、國定稅目竝ニ國定稅率ノ改正ニヨリ、稅率協定ノ基礎ヲ固ムルニ在リ。嘗テ獨逸ガ千九百二年十二月二十五日、瑞西ガ同年十月十日、露西亞ガ千九百三年一月十三日、各新關稅定率法ヲ制定シ、今ヤ米國モ亦之ガ改正ヲ討議シツ、アルハ之レガ爲メ也。

之ヲ以テ我國ニ於テモ、目下大藏省主トシテ之ガ改正案作製ノ任ニ當リ、本年九月迄ニハ略ボ脱稿ス可シト傳フ。詳細ナル内容ハ未ダ之ヲ知ル能ハザルモ、税目ハ大ニ之ヲ細分シテ、約九百ニ上リ、之ヲ現在ノモノニ比スレバ、約四百ヲ増加セリ、サレド税率ニ至テハ、原料品中減率サレタルモノアリ、製造品中増率サレタルモノアリテ、多少ノ修正ヲ見ルモ、大體ニ現行率同様ト見テ大過ナシト云フ。

若シ果シテ此ノ如キモノナランニハ、洵ニ結構ナレドモ、方今、我國ニ於ケル獨逸學派ノ保護主義鼓吹ハ、多少藥ガ利キ過ギタルノ觀アリテ、朝野舉テ保護熱ニ狂奔セントスルノ傾向アルハ、大ニ戒ム可キ也。

由來、保護貿易主義ノ一大缺點トモ稱ス可キハ、保護熱ノ累進シ易ク、彌蔓シ易キ傾向アルコト是レ也。少量ノ酒ハ却テ健康ニ益アルモ、一度ビ酒癖ヲ生ゼバ、遂ニ酒ヲ飲ミ、酒、人ヲ飲ムニ至ルノ虞アルニ等シ。是レ保護主義ヲ採用スルニ當テ、切ニ戒心ス可キノ點ナレドモ、議會ニ於ケル利益ノ交換上ヨリ、次第ニ保護ノ範圍ヲ廣ゲ、前途發達ノ見込アル産業モ、見込ナキ産業モ、農モ工モ、玉モ石モ、一切無差別ニ之ヲ保護スルニ至ル可ク、而モ彼レ一步、是レ一步ト次第ニ保護ノ程度ヲ嵩ムルニ至

來ル可キ條約改正ニ際スル國定稅率
及ビ協定稅率如何

ル。方今我國ニ於テハ、民間ニ既ニ此ノ傾向アルニ、搗テ、加テ、政府モ亦之ト步調ヲ一ニセントスルモノ、如シ。吾人ハ聞ク處ニシテ、大過ナカラシムレバ、農商務省ハ産業保護ノ理由上ヨリ、大藏省ハ歲入増加ノ必要上ヨリ、外務省ハ條約談判ノ掛引上ヨリ、與ニ共ニ國定稅率ハ引上ヲ希望スルモノハ、如シ。是レ果シテ當ヲ得タルモノナルカ。吾人甚タ疑無キ能ハザル也。

吾人ハ世界ノ現勢ニ照シ、我國ノ現狀ニ鑑ミ、大體ニ於テ、保護貿易主義ヲ採用スルヲ以テ、機宜ヲ得タルヲ信ズルモノナレドモ(本誌第三卷第二號、拙稿「自由貿易主義ト保護貿易主義」參照)、舊關稅定率法(明治三十年制定)ニ於テ、平均約一割ナリシ國定稅率ヲ、新關稅定率法(明治三十九年制定)ニ於テ、平均約三割ニ嵩メタルニ、更ニ之ヲ引上ゲントスルハ、既ニ保護熱ニ心醉セルモノト評ス可シ。國家ハ其ノ國狀ト時勢トニ鑑ミ、或ハ自由貿易主義ト化スルヲ適當ナリトシ、或ハ保護貿易主義ニ轉ズルヲ是ナリト決定スルモ、其ノ轉化ハ成ル可ク徐々ニ行ハザルベカラズ。モルヒネハ少量ヅ、服用スレバ、容易ニ腹痛ヲ醫ス可キモ、一時ニ多量ヲ用ヒンカ忽チ其ノ生命ヲ奪ハン之ト同様ニ、主義ハ變化、政策ハ變更ハ、成ル可ク徐々ニ行フニアラズ。

ン、百ノ害、アツテ一ノ益ナカラシ。アダム、スミスハ自由貿易主義ノ元祖トモ稱ス可キ人ナレドモ、尙ホ其ノ主義ヲ採用スルニ就テ、警告ヲ與テ曰ク

自由貿易主義ノ採用從テ行ル關稅ノ撤回ハ徐ニ之ヲ行ハザルベカラズ。然ラザレバ、外國ノ競爭一時ニ潮ノ如ク寄セ來テ、內國ニ於ケル舊式ノ産業ハ忽チ壓倒セラレ、今迄其業ニ從事セル無數ノ勞働者ハ忽チ其ノ職ヲ失ヒ、衣食ニ窮シテ路頭ニ迷フノ慘狀ヲ呈スルニ至ラン

ト。是レ自由貿易主義ニ轉ズル場合ナレドモ、保護貿易主義ニ變ズル場合ニモ、亦同一ノ警告ヲ與フルヲ得可シ。

之レヲ要スルニ從來經濟學者竝ニ政治家ノ通弊トモ稱ス可キハ貿易上ノ主義政策ノ價值ヲ過大視スルノ結果一旦自由貿易主義是ナリ、保護貿易主義可ナリト思ヒ込マバ、一圖ニ之ニ急奔シテ、一國ノ産業ハ唯其ノ主義唯其ノ政策ニヨツテハミ、發展シ得可シト信ズルガ抑モ大ナル間違ナリ。然カ信ズルガ故ニ、之ニ向テ突進ヲ試ルニ至ル次第ナランモ、一國ノ産業ハ自由放任スレバトテ、直チニ勃興スルモノニ非ズ、保護干涉スレバトテ、直チニ發達スルモノニ非ズ。自由貿易主義トイヒ、保

護貿易主義トモ、時ト所トヲ選バ、唯一國ノ産業發達ノ一助トナル可キノミ、此ノ點ニ就テ、吾人ハ切ニ我國朝野有志ノ猛省ヲ望ムモノ也。

三、

サレド現行國定稅目約五百ナルヲ、細分シテ約九百ニ増加セルハ大ニ贊成セザルヲ得ズ。其理由トスル所ハ、

第一、方今各國與ニ各種工藝ノ發達盛ンニシテ、新產物續出ス可ケレバ、之ニ應ジテ、稅目ヲ増設ス可キハ當然ナルコト、

第二、稅目ノ分類精密ナルトキハ、稅率ヲ適用スルコト容易ニシテ、課稅ニ際スル爭議ヲ避ケ得ルノ便益アルコト、

ニ存スルハ勿論、更ニ

第三、稅目ノ分類細密ナルトキハ、我ニ利益アル條約ヲ締結シ得ルノ便宜アルコト、

第四、無條件最惠國條款ノ約定ニ伴フ被均需ノ弊害ヲ減少シ得ルノ利益アルコト

ニ存スル也。

前二種ノ理由ニ就テハ、別ニ説明ヲ要セザルモ、後二種ノ理由ニ就テハ一通リ説明セン。國定税目ノ分類粗大ナルトキハ、税率協定ニ際シ、自然我レヨリ提供スル協定税目少キガ故ニ、之ニ對シテ彼レヨリ得可キ協定税目モ亦少ナカル可キ道理ナルガ上ニ萬一彼レニシテ税目ノ分類我レニ比シ遙カニ細密ナルモノナランニハ假令ヘ協定税目數ハ同一ナルモ、我レノ讓歩ハ彼レノ讓歩ニ比シ、事實上遙カニ大ナルモノトナルニ至ルノ虞レアル可シ。之ニ反シ、我國ノ方國定税目ノ分類詳密ナルトキハ、關稅協定ニ際シ、讓歩ノ範圍竝ニ程度ヲ正確ニ測定シ得ルガ故ニ、之ニ對シテ相手國ヨリ得可キ讓歩ノ範圍竝ニ程度(即チ報償ノ高)ヲ誤ルノ憂少カル可ク又國定税目ヲ成ル可ク細カニ分類スルトキハ以テ税率協定ノ用ニ供シ得可キ税目數増加スルガ故ニ、之ニ應ジテ相手國ヨリ得可キ協定税目數モ亦増加ス可キ道理ナリ。更ニ後日協定税率ヲ適用スルニ當テモ管ニ爭議ヲ起サルノミナラズ、類推的解釋ニヨリ、條約當時豫期セザリシ物品ニ迄モ、協定税率ヲ適用スルニ至ルガ如キ虞レナキハ勿論、一品目中ノ特種品ヲ選出シ之ニ對シテ特種ノ協定ヲナスノ

便宜ヲ有ス可シ。又此結果、相手國ノ特產物ニ對シテノミ、關稅輕減ヲ約シ得ルガ故ニ、容易ニ第三國ヲシテ之ニ均霑シ得ルノ機會ヲ得セシメザル可ク、通常、無條件最惠國條款約定ノ場合ニ免レザル、均霑ニヨル讓歩ノ程度ノ膨張タル弊害ヲ緩和シ得可キ也。然ルニ國定稅目ニシテ概括的ニ過グルモノナルトキハ、之ヲ基礎トシテ約定セル協定稅目モ亦自カラ概括的ニ過グルモノトナリ、類ヲ同フスル多數ノ物品ガ、同一協定稅目中ニ包含セラル、ニ至ル可ケレバ、實ニ相手協定國ニ對スル讓歩ノ程度ヲ過大ナラシムルノ損失アルノミナラズ、其他ノ最惠國ニ對シテモ亦該協定稅目中ニ包含セラレタル特種ノ物品ニ就キ、何等ノ對價ヲ支拂ハシムル能ハズシテ、減稅ノ利益ノミニ均霑シ得セシムルノ結果トナリス可シ。之ヲ以テ近年各國トモニ成ル可ク細カニ國定稅目ヲ種別スルノ方針ニ出ヅ。現ニ獨逸ガ舊國定稅目三百八十七(一八七九年)ヲ九百四十六ニ、瑞西ガ七百二十三(一八九一年)ヲ千百六十四ニ、奧太利ガ三百五十六(一八八二年)ヲ六百五十九ニ増加シタルハ皆以上ノ理由ニヨルモノニシテ、就中、千八百九十一年、獨相カブリヴキガビスマルクノ國定稅率主義ヲ排シ、國定協定稅率主義ヲ採用スルヤ、豫メ國定稅目ノ細分ヲ企テ、以テ

稅率協定ニ有利ナル結果ヲ收メタルハ、今尙ホ世人ノ嘆稱シテ措ザル所ナリ。

我ガ現行條約中、英、獨、佛トノ間ニ約定セル協定稅目ハ、皆之レ偏務的ノモノナルヲ以テ、其我レニ不利ナルハ申ス迄モ無ケレド、若シ是等ノ協定稅目ニシテ細密ナル分類ニヨルモノナランニハ、過去ニ於ケル被害ノ度モ或ハ左迄甚シカラザリシナラン稅目數コソ英トハ六十四種獨トハ五十九種、佛トハ三十九種ナレド、其稅目ハ皆護謨製品、綿織絲類、綿布類、毛織物類、紙類、鋼鐵ト云フガ如キ、甚シク抽象的若シクハ總括的ノモノナルヲ以テ、殆ンド一切ノ重要工業品ニ就キ、五分乃至一割五分ノ低稅ヲ協定セル結果トナリタルノミナラズ、其他ノ諸國ヨリノ輸入品モ大抵此ノ如キ總括的稅目ノ内ニ包含サレ居ルガ故ニ、是等ノ諸國ハ我國ニ對シテ別段ノ讓歩ヲナスナク單ニ一片ノ最惠國條款ノ約定ニヨリ、容易ニ多大ノ利益ニ浴スルヲ得タリ。此ノ前例ニ顧テモ今回ノ條約改正ニ當リテハ豫メ充分ニ稅目ヲ細分シ置キ、關稅協定ニ際スル反對給付ノ物件ヲ増加シ置キ以テ成ル可ク多數ノ協定稅目ヲ得ルノ用ニ供スルト與ニ、最惠國條款ニヨリ、意外ノ邊ニ、意外ノ程度ニ、被均霑ノ被害ヲ見ザルノ用意ナカルベカラズ。

(未完)